



TITLE:

北京師範大学との学術交流: 教員相互派遣 集中講義2008

AUTHOR(S):

安川, 由貴子

CITATION:

安川, 由貴子. 北京師範大学との学術交流: 教員相互派遣 集中講義2008. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 129-129

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179682>

RIGHT:

教員相互派遣 集中講義2008

1. 北京師範大学との学術交流協定にもとづく教員相互派遣の取り組み

2006年6月に北京師範大学教育学院との間に締結された学術交流協定にもとづく取り組みの一つとして教員相互派遣による集中講義が行われている。2006年11月には教育学研究科から辻本雅史教授が訪中され日本近世教育史の講義を、2007年9月には北京師範大学教育学院より劉慧珍副教授（高等教育研究所所長）が来学され、研究科の大塚雄作教授・金子勉准教授と共同で集中講義「国際教育研究フロンティア」を担当された。劉先生の講義テーマは、「中国高等教育体制改革」であった。3回目にあたる2008年12月には、教育学研究科の大塚雄作教授（高等教育研究開発推進センター）による集中講義「高等教育論—日本の大学教育の課題と評価—」が北京師範大学にて行われた。



▶大塚雄作先生と通訳の楊突さん

2. 「高等教育論—日本の大学教育の課題と評価—」

12月3日(水)～6日(土)の午前中、北京師範大学教育学院にて行われた講義には、教育学院の高等教育専攻の大学院生だけでなく、近隣の大学の院生も含めて40名前後の参加があった。講義は「Ⅰ. 京都大学案内、Ⅱ. 日本の大学の現状、Ⅲ. 日本の大学教育の課題、Ⅳ. 大学評価改革の実際と課題、Ⅴ. 大学のあり方を問う」という柱で行われた。大塚先生によると講義内容は以下の通りである。まず、日本の大学の具体的なイメージを中国の学生に掴んでもらうために、写真なども多く取り入れた京都大学の事例紹介がなされた。次に、日本の大学を取り巻く社会的背景と、それがユニバーサル化、グローバル化として、日本の大学にどのような影響を及ぼし、それによって現在、日本の大学がどのような状況にあるのかに焦点が当てられた。3日目は、大学教育の課題についてFDのトピックなども交えて紹介され、最終日は、そういった日本の大学が、どのような評価システムによって質保証が試みられているかの紹介を行い、大学のあり方などについてディスカッションするということでまとめがなされた。

楊突さん（関西外国語大学非常勤講師）が通訳を務



めた。また、院生の河井亨さんが授業補助者（TA）を務め、京都大学の学生の視点からのコメントも行った。師範大学側からも、高等教育研究所の先生方の参加やTAとして院生の柳飛さんのサポートもあった。ディスカッションや問いかけを多く取り入れた授業形態の中で、質疑応答を含む活発なやりとりがなされた。

3. 「学習共同体」への大きな関心

北京師範大学の学生は、大塚先生の提起された「学習共同体」の考え方に非常に興味をもったことがうかがえる。「大学評価というマクロなテーマと結びつけつつ、大塚先生が次に紹介したのは、大学の授業をどう評価するかというテーマです。ここでは、先生の実際の授業研究を紹介しつつ、学習共同体というコンセプトを説明なさいました。このコンセプトは、多くの学生が興味を引いたようで、学生からの感想にもその点がうかがえます。そのうえで、大学評価の展開や課題など、再び評価を中心にすえた議論へと移行します。評価という議論の柱は、学生にとっても理解を助けたようで、『その評価の観点については、私も同感です。特に活力を増す評価は高等教育と基礎教育においてとても大切です！』という学生もいました」。(河井亨さんによる集中講義報告より一部抜粋、同学術交流報告書、2009年3月)



▶休憩の間も熱心に質問する学生



▶授業中の活発な質疑応答

（文責：安川 由貴子）